

丸森町国民健康保険丸森病院 広報誌

私たち職員は、住民の皆様信頼され愛される病院づくりを目指します

まるもり病院だより

Vol.20
2026. Oct.

Marumori Town National Health Insurance Marumori Hospital



山本副院長の内視鏡検査実施の様子

contents

巻頭言 ②

健やかな老い 院長 佐藤晃彦

コラム・部署紹介 ③

かかりつけ医とは 外科医長 只野恭教

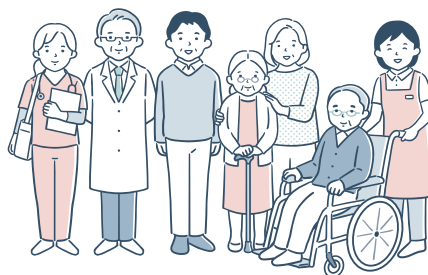
口腔ケアのとりくみについて 病院歯科

お知らせ ④

予防接種受付始めます

生活習慣病予防健診(事業所健診)のご案内

夜間・休日の検査体制整備について



詳しい病院情報

ホームページはこちらから

<https://www.town.marumori.miyagi.jp/maru-hospital/>



巻頭言

健やかな老い

院長 佐藤 晃彦

丸森病院に着任して、まず必要だったのは、皆さんの顔と名前を覚えることでした。ところが、これが容易ではありません。覚えたはずの名前が出てこないこともしばしばです。そんなことで苦労している私が、皆さんから尋ねられることの多い質問が、皮肉にも「呆けないためには、どんなことに気をつけたらいいですか」というものです。



医学的に「認知症」とは、

- ①記憶する力、
- ②計画を立てて実行する力、
- ③注意を持続したり振り分ける力、
- ④言葉を理解したり表現する力、
- ⑤他人の気持ちに配慮して言動する力、
- ⑥思考・反応・動作のスピード、
- ⑦見たものを正確に把握する力、

という認知機能のうち、2つ以上が低下し、かつ日常生活に支障をきたした状態をいいます。物忘れがあっても、基本的な日常生活に問題がなければ、認知症ではありません。一方で、記憶の障害がなくても、ちょっとしたことに怒って悪態をつくようになった、独りでの買い物が難しくなった、季節に合わない服装をするようになった、夕方になるとウロウロして家を出て行こうとする、車をぶついたり擦ることが増えた、といった変化は、認知症のサインの場合があります。

認知症の治療は、以前は病状が進行してからへの対応が主でしたが、最近では、上記のような認知症のサインに早期に気づき、進行を抑えるための治療や、生活全体の支援につなげるこ

と重点が置かれています。高血圧や糖尿病、脂質異常症などの、一見、認知症とは関係がなさそうな持病をきちんと管理することや、無理のない範囲で体を動かすことの重要性も分かってきました。また、家庭や地域の中で、自分にできることや得意なことを続け、何らかの役割を持つことも大切です。人と話すこと、笑うこと、誰かの役に立つこと。そうした日々の積み重ねが、心の安定や、今ある力を保つことにつながります。

私が外来で担当している舘矢間のFさんは101歳です。笑顔が素敵で肌もつやつや。ご自分で選ばれた素敵な服装で来院され、頭もしっかり、歩きもしっかりされています。「今が幸せ」「ありがたい」が口癖ですが、時代を考えると、きっと大変なご苦労をされてきたこととお察しいたします。デイサービスでは、自ら積極的に周りの方に声をかけ会話をされているそうですが、声をかける際には、相手のプライベートに踏み込み過ぎないよう心がけているとのこと。深いお話です。Fさんからは、「健やかに老いる」ということは、単に病気にならないことではなく、「その人らしく、できることを続け、人とのつながりを大切にしながら毎日を過ごすこと。できないことが増えた時には、周囲の力を借りながら、自分らしい生活を続けていくこと」だと教えられます。

丸森病院には、2名の認知症サポート医がおります（佐藤、山本）。物忘れや日常生活で気になることがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



コラム【第1回】

かかりつけ医とは

外科医長 只野恭教

ただのやすのり

大きな病院で専門医として働いているうちは「かかりつけ医」というものをあまり意識せずに仕事をしていましたが、地域医療の仕事をするようになり「かかりつけ医」というのはどういうもの



か、どうあるべきかをよく考えるようになりました。患者さんにとっては熱が出たらよく行く近くの病院、血圧の薬を定期的にもらいに行く病院がかかりつけ医とっていることと思います。間違いではないですが、かかりつけ医という意味はもっと大きく深いものだとは私は思っています。「かかりつけ医」ではなく「かかりつけの患者さん」

という医師からの視点で話をすると、単によく来る患者さんという意味だけではなく、その方が今までどのような病気になり、他の病院にどのようにかかっており、今までの治療経過はどうだったか、家族背景や生活背景はどうか、介護状態はどうかなど、その方の健康にまつわるいわば歴史まで全て把握した患者さんが「かかりつけの患者さん」と捉えています。こういった背景情報も踏まえた上で症状の訴えを聞かないと適切な診断、治療に結びつかないことは多々あります。いつも行く病院に行ってすぐ薬だけ出してもらえる、というのはかかりつけ医の診療としては全然足りません。自分の健康状態、病気のことを全て知ってくれている、その上で体の症状、不安、悩みを聞いてくれて検査や治療方針を考えてくれる、そういったお医者さんがかかりつけ医として信頼できる姿です。厚生労働省や日本医師会のウェブサイトでもかかりつけ医について同じようなことが書いてありますので参考にしてみてください。そのような「かかりつけ医」でいられるよう頑張っていきます（頑張っています）。

部署紹介 「口腔ケアの取り組みについて」
～丸森病院歯科～

当院では、入院中の患者様のQOL（生活の質）を高める取り組みの一環として、口腔ケアを実施しています。これは、患者様の「食べる」、「話す」などの口腔機能の維持・向上や誤嚥性肺炎などの感染症予防、栄養状態の改善などにつなげることを目的としています。

近年では、社会全体で高齢者の割合が増えていますが、そうした方たちのQOL維持のためには、楽しく安全で美味しい食事ができることや、会話をすることは欠かせない条件です。そのためにも、歯科疾患の予防、口腔機能の維持が重要であり、継続的な口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺炎や低栄養の予防効果も見込めます。特に、最近では肺炎で亡くなる高齢者が増えており、その大半は誤嚥性肺炎であると言われています。また、直接的な死因となるばかりではなく、寝たきりの原因となったり機能回復を妨げたり遅延させる要因ともなります。誤嚥性肺炎の主な原因の一つは、口腔内細菌です。適切なケアにより口腔内を清潔に保ち、細菌の増殖を抑えることがとても有効な対策になります。

また、「食べる」機能を維持するためには、歯のケアも必須であり、虫歯の長期放置、動揺歯、義歯の不適合などへの対応も欠かせません。しっかり噛んで美味しく食べることは、体力や認知機能のリハビリテーション効果を高め、早期の退院にもつながります。

当院では、入院中に患者様の口腔状況を無料の口腔アセスメントにより評価し、希望があれば、歯科衛生士による口腔清掃や、虫歯の治療、義歯の調整を行っています。今後も、口腔ケアの取り組みを通じて、地域に必要とされる医療の提供を図っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

予防接種受付始めます

インフルエンザ・新型コロナの予防接種受付がはじまります！

10月から予防接種の予約受付を開始します。事前に電話または窓口で予約をお取りください。(中学生以上が対象です。)



予約受付時間 平日 午前8時30分～午後4時

お問い合わせ 受付窓口 0224-72-2131

インフルエンザ予防接種

予約開始：令和8年10月1日(木)

接種開始：令和8年10月13日(火)

新型コロナ予防接種

予約開始：令和8年10月19日(月)

接種開始：令和8年11月9日(月)

生活習慣病予防健診(事業所健診)のご案内

協会けんぽ(全国健康保険協会)の健診は、生活習慣によって引き起こる様々な疾病を予防する健康診断です。協会けんぽ加入者を対象に、補助を利用し、気軽に受診いただけます。また、通常の一般健診の他、特定の年齢の方が対象となる節目健診、肝炎ウイルスへの感染の有無を調べるための検査等がございます。事前の予約申し込みが必要となりますので、ご希望の際はお問い合わせください。



今年度の実施期間 令和8年4月～令和9年2月

実施日 毎週水曜日、金曜日(祝日は実施していません)

お問い合わせ 丸森病院地域連携班 0224-72-2131

夜間・休日の検査体制整備について

生化学自動分析装置・全自動血球計数装置を新規導入しました

生化学自動分析装置・全自動血球計数装置は、血液中に含まれる成分を調べ、体の不調や病気のサインを見つけるための装置です。

検査技師が不在時(夜間・休日)においても検体検査が行える体制を整え、診療の質の向上を図ります。

<特徴>

- ・検査結果が出るまでに約2～12分と短いため診療がスムーズに行えます。



生化学自動分析装置



全自動血球計数装置

お問い合わせ

丸森町国民健康保険 丸森病院

電話 0224-72-2131 FAX 0224-72-2474

まるもりびょういん



<https://www.town.marumori.miyagi.jp/maru-hospital/>